

# 地域における音環境の調査と提案

メンバー：井澤咲希 奥崎夏帆 川浪香怜 工藤茉奈 熊谷里沙  
鈴木裕也 早崎亮太 武佐晃瑛

担当教員：今野英明

## 1. 背景・目的・概要

現在日本では総人口の減少が問題となっているが、函館市においても人口減少が避けられない状況となっている。それにはもちろん出生率の低下が大きな理由であることは疑いようがないが、函館の場合はそれに加えて若者の地元離れという問題も絡んでいる。特にやりたいことも決まっていないがとりあえず函館を出て都会へ移住するというケースは少なくない。一方で函館には函館ならではの魅力が溢れている。その本来の魅力が住民に伝わり切っていない現状があるように考えられる。そこで、もともとプロジェクトのテーマであった音に焦点を合わせ、函館の魅力を音で発信することを目的にした。そして函館の音をマップに載せた「おとマップ」を作成し、どのような音がどこで聴けるのかを手軽に調べられるようにすることで魅力を発信することにした。

## 2. 年間スケジュール

4月	顔合わせ 方針を決める話し合い	10月	アンケート作成 Webサイト作成(1) 音収録(2)
5月	録音機器の操作確認 地域課題の調査(1)	11月	Webサイト作成(2) 音収録(3) おとマップ作成(1)
6月	音収録(1) 地域課題の調査(2) これまでの活動のまとめ	12月	Webサイト作成(3) 音収録(4) おとマップ作成(2) パンフレット作成
7月	中間発表会準備 中間発表会 前期の総括と反省	1月	Webサイト作成(5) 最終発表会準備 最終発表会 総括と反省 報告書作成

### 3. プロセスと成果

函館の魅力について再認識してもらうため、第一段階のおとマップを作成した。この時点での「おとマップ」掲載音はメンバーの話し合いにより、有名かつ函館ならではの、位置的に比較的収録しやすい場所が選定された。

「おとマップ」に今後掲載すべき音の調査と「おとマップ」の改善を図るため、第一段階の「おとマップ」収録音を大学祭において聴いていただき、函館の音についてアンケートを行った。

大学祭でのアンケートは全 55 名の回答を得られた。内約は、男性が 33 名、内 10 代以下 1 名、10 代 4 名、20 代 24 名、40 代 3 名、不明 1 名。女性が 21 名、内 10 代 6 名、20 代 14 名、30 代 1 名、不明 1 名である。アンケートでどの音が印象的だったか、またその他に函館で印象的な音があるのかという質問に答えてもらった。聞かせた音は「函館山」「ハリストス正教会」「市電」「イカ釣り漁船」の 4 つである。その結果は、函館山が一番多くて 51 票、次に市電が 50 票、港まつりが 40 票、ハリストス正教会が 33 票と続いて、最後にその他で 37 票という結果となった。その他の中には「金森倉庫」「ラッキーピエロ」「緑の島」などが挙げられた。

アンケートの集計結果をもとに、作成中の「おとマップ」の改善点を話し合った。その結果アンケート項目の「その他に函館で印象的な音」として挙げられた「ラッキーピエロ」「緑の島」「金森倉庫」の音を新たに収録し、「おとマップ」に掲載した。どの場所も季節による音の違いや、天候や風の様子による音の違いがある。特に「緑の島」はその日にしか録ることのできない特別な音である。「金森倉庫」は、今回はクリスマスシーズンに音収録を行い、季節感あふれる音となっている。またもう一つアンケートで挙げられた「白鳥町の鐘」については音源となる場所を特定できなかったために、今回は掲載することができなかった。

アンケートでの改善点を考慮した第二段階の「おとマップ」をプロジェクトチームの web サイトに掲載し、web サイト作成の情報を掲載したパンフレットを作成することで「おとマップ」の広報に努めた。

### 4. 総括と反省

「おとマップ」というものを作成することで、具体的に活動を進めていった。それに加え、音収録の場所を増やすため、また、地域を集めるという目的のためにアンケート調査を実施し、地域住民の声を取り入れた。「おとマップ」を web サイトに掲載し、その情報を拡散する手段としてパンフレットを作成することでより多くの人に閲覧してもらえるようにした。Web サイトでは、「おとマップ」から実際に収録した音を聞くことができ、アンケート調査も実施しているため web サイト上から地域の評価を得ることができる。

反省点として、季節によってその場所の音が変化するのかという検証ができなかった。ま

た、音を収録する際に記録される正確な日時や天気を整理し活用しなかったことも挙げられる。今回は、「おとマップ」としてイラストと音のみでのアプローチであったが、映像と合わせる方法も提案していきたい。

## 5. 地域からの評価

地域住民からの声を「おとマップ」に反映させるために Web サイト上にアンケートを掲載した。その質問は 6 問で、アンケートは今も回答を受け付け中だが、回答を集計した時点では 6 人の回答が得られた。

1.おとマップの第一印象はどうか。

良い 100%

2.おとマップを見て、聞いて、函館に魅力を感じたか。

感じた 100%

3.どこの場所に魅力を感じたか。

函館山 50% ハリストス正教会 66.7% 市電 0% イカ釣り漁船 16.7%

4.魅力を感じられなかったのはどこか。

函館山 0% ハリストス正教会 25% 市電 25% イカ釣り漁船 25%

5.おとマップを見て、聞いて、函館に行きたくなったか。

行きたくなった 83.3% 在住 16.7%

6.おとマップを見て、聞いて、函館に住みたくなったか。

住みたい 50% 住みたくない 33.3% 住みたいと思うほど音で魅力を感じない 16.7%

という結果になった。

「おとマップ」の印象についてのアンケート結果は 100%いい結果を得ることができたが、函館に対して「おとマップ」が影響を与えることができたのは 100%ではなかった。特に、おとマップを見て函館に住みたいと思った人の割合は全体の 60%であり、高い結果であるとは言えない。また、函館に住みたいと思わなかったと答えた人の中に、函館に住みたいと思うほど、音に魅力を感じないという意見もあった。

函館の課題である、若年層の人口が減少している、ということに関して、「おとマップ」を見て、函館に来たくなったか、又は住みたくなったかという質問に対しては、住みたいと思った人のほうがまた来たいと思った人よりも少ないという結果になった。この結果を受け入れ、住みたいと思う人が増えるような「おとマップ」作りを工夫して行っていきたい。